

会議録

会議の名称	令和4年度第7回枚方市立禁野小学校の新しい学校づくり協議会
開催日時	令和5年1月28日(土) 10時00分から11時00分まで
開催場所	禁野小学校図工室
出席者	(会長) 奥野委員 (副会長) 森委員 (委員) 森田委員、春永禁野小教頭(代理出席)、山下委員、中村委員 (事務局:新しい学校推進室) 畑中課長、萩森課長代理、石田係長、多田主任、廣瀬主任 (事務局:建築課) 水阪課長代理、澤田係長、前田係員 (前田組・浦辺設計共同企業体) (前田組) 尾崎設計部専任部長、山之内工事部長、杉本工事部 工事課長、馬場工事部所長 (浦辺設計) 西村代表取締役、近藤取締役執行役員、 前田一級建築士
欠席者	高橋委員
案件名	1. 禁野小学校の新校舎整備について ・解体工事(旧高陵小学校)の工程について ・新校舎の設計について 2. その他
提出された資料等の名称	(資料1)禁野小学校整備事業[旧高陵小学校解体工事]スケジュール概要 (資料2)禁野小学校整備事業1月・2月度月間工程表 (資料3)禁野小学校整備事業週間工程表 (資料4)工事における安全対策等に係る確認事項 (資料5)工事現場の壁写真(高陵幼稚園児等の絵を掲示) (資料6)枚方市立禁野小学校新校舎における地域避難拠点の考え方について
協議・決定・報告事項	1. 解体工事(旧高陵小学校)の工程について 2. 新校舎の設計について
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録等の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	0人
所管部署(事務局)	総合教育部 新しい学校推進室

協 議 内 容

案件 1. 禁野小学校の新校舎整備について

<前田組の説明>

【解体工事の工程について(資料 1～5 の主な部分の説明)】

- ・近隣説明会では体育館躯体解体後は体育館基礎解体に着手すると説明したが、計画が変更になり、体育館躯体解体後は管理棟と教室棟の躯体解体を行い、その後、体育館の基礎解体に着手する。その他については大きな変更点なし
- ・令和 5 年 4 月中旬には躯体、基礎の解体が完了し、伐採伐根や整地・片付け後、5 月末には解体工事完了予定。
- ・体育館躯体解体は 1 月 10 日から着手し、23 日に完了した。引き続き管理棟躯体解体に着手し、並行して教室棟内装の解体、石綿レベル 3 の撤去を実施する。
- ・管理棟躯体解体は 2 月 20 日頃までを予定し、21 日頃から教室棟の躯体解体に着手し、内装関係の撤去は 2 月上旬に完了する見込み。
- ・各搬出入工事車両は 1 日の最大数を越えないよう遵守している。
- ・工事に伴い予想される影響として、金属を切断する音や金属同士が接触する音や、重機のエンジン音が発生する。(いずれも振動基準値 85db 以下、騒音基準値 75db 以下)
- ・旧高陵小正門に面する道路について、前回協議会で UR の駐車場より手前に停止線を設け、信号待ちの際、工事大型車両を待機させる方がよいのではとご提案いただいた。検証した結果、駐車場手前から徐行運転 (15 km/h～16 km/h) で走行した場合、交差点に進入する前に信号が変わってしまう (交差点まで約 24 秒かかり、信号機は約 20 秒で青から赤に変わる) ため、予定していた停止線の場所で停止することとした。
- ・工事開始後 2 カ月経過し、12 月は 2 回、1 月は 3 回、工事大型車両と一般車両の離合が発生したが誘導員の対応により問題は生じていない。工事大型車両同士の離合や連なって出入りすることがないように調整している。
- ・UR 駐車場について 14 日間 (8 時 30 分～17 時 30 分) 記録し、駐車台数 18 台、出庫最大 8 台、入庫最大 9 台、入出庫最大 16 台だった。現在まで特に苦情等はなく、今後も状況を注視しながら安全に進めていきたい。
- ・高陵幼稚園児等に描いてもらった絵を南側の臨時駐輪場付近の工事フェンスに掲示している。

<質疑・意見など>

- (委) 工事関係車両停止線の件について、中宮第三団地 C 地区自治会長に説明したのか。
- (前) 自治会長へのご説明はまだしていない。
- (委) 工事大型車両の停止線の位置を校区コミュニティ協議会として提案しお願いしている以上、当初の案で進めるならその旨の説明があつて然るべきではないか。
- (委) 基礎解体工事は、どのような騒音・振動が発生するのか。
- (前) 躯体解体と同じような作業方法のため、騒音は今までと同等だが、振動は若干多く発生すると予想している。騒音振動計を現場の内外に設置しているので、数値を確認しながら解体工事を進めていきたい。
- (委) 法面下の住民にも説明しておく必要があるのではないか。
- (委) 現時点で騒音・振動の数値は最大どのくらいか。
- (前) 騒音については最大 70db 台、振動については最大 30～40db で推移し基準範囲内。
- (委) 基礎解体工事の時はどのくらいの数値になるのか。
- (前) 騒音は躯体の解体工事と同じくらいの数値だが、振動は大きくなる見通しである。
- (委) 重機は今何台くらい入っているのか。
- (前) 現在 4 台入っており、最大で 8 台程度になる予定。
- (委) 体育館の解体工事を見たが順調に進んでいるように感じている。

<浦部設計の説明>

【新校舎の設計について（資料6の説明）】

- ・禁野小を防災避難拠点施設として使用する場合の考え方について整理した。
- ・法に定められた耐震性能を備えている。
- ・通常、学校避難施設としては体育館が主になるが、禁野小新校舎は体育館が2階にありその下に地域関連諸室や留守家庭児童会室を含めて地域避難所施設としているのが特徴。
- ・図中、黄色（コミュニティルーム、PTA室、多目的室A、留守家庭児童会室兼多目的室1、備蓄倉庫）は概ね避難所の専用スペースにするイメージである。
- ・大規模災害が発生すればその他諸室（ピンク色）も使用することになるが、避難生活が長期化した場合、学校や留守家庭児童会室等を再開すると兼用しないとイケない。その点は学校と地域等でルール化する必要があると考える。
- ・体育館トイレは引き戸で仕切ることができ、避難所専用と支援教室等学校専用とで分けることができる。
- ・災害時には、コミュニティルーム横の多目的トイレのシャワーブースや、備蓄倉庫横のトイレ（普段は留守家庭児童会室中心で使用）も使用できる。
- ・建物周囲の雨水がかからない部分を通路としており、マンホールトイレにアプローチできるようにしている。
- ・災害時に家庭科室で調理ができる。インフラが使えない場合、中庭の庇（ひさし）が付いた場所で炊事ができるスペースも確保している。
- ・地域避難拠点の近くに屋根付き駐輪場を計画しているので、そこをペットの避難場所として利用できるようにしている。
- ・備蓄倉庫には市や地域の備蓄品が入るが、1階の備蓄倉庫から毛布を2階体育館に移動するのは大変である。基本的にパイプ椅子等が収納されることになる体育館床下収納スペースを追加し、毛布が入った段ボール類等も収納できるように考えた。
- ・災害時には断水になることも考えられるので、受水槽を屋外体育倉庫上に設置している。受水槽に溜めた水について避難所利用することができる。
- ・電気について、屋上に14kwの太陽光発電装置と、16kwの蓄電池を設置している。停電時、自動的に蓄電を使用できる。地域避難拠点の保安灯やコンセントには使用できるが、大量の電気を必要とするものには使用できない。
- ・電源車が来て電気が供給されれば、エレベーターや職員室、保健室等の電気が使えるような配線回路にしている。
- ・地域の方々からの「2階体育館までのスロープが設置できないか」の意見については、1階からの階高が4mあるためスロープが約70mの長さになってしまい、公立学校では非現実的であることをご理解いただきたい。
- ・体が不自由な方、車椅子を利用される方等は、基本的に1階の避難拠点の利用を想定。
- ・「学校の位置が高台にあり西側から移動する際のスロープが設置できないか」という意見については、地域全体で考える上で、今後どうしていくかの議論はあるかと思うが、本事業においては今回の開発許可の関係上、不可能であることをご理解いただきたい。
- ・コミュニティルーム、PTA室については現在微調整しており、地域が使うトイレを内側からではなく外側から使えるようにと考えている。そうすればPTAの方々も使用でき、コミュニティルーム内もより有効的な活用ができる。
- ・湯沸かしの位置は変え、コミュニティルームに押入れスペースを新たに設けた。
- ・コミュニティルームとPTA室の間は引き戸で開け閉めでき、一体として利用できるようにした方がよいのではと考える。
- ・トイレの在り方を含め、今後、学校と詳細に協議していくので、様々な調整事項についてはまたご報告したい。

<質疑・意見など>

（委）耐震性能はどのくらいか。震度7にも耐えられるのか。

- (浦) 学校施設に求められる耐震性能はⅡ類である。Ⅱ類は、震度7のような強い地震が起きた場合、崩壊する恐れはないが少し補修が必要になる程度の基準。Ⅰ類の基準は、公共の避難専用の施設や、消防の防災庁舎等に限定されている。
- (委) 校舎側も同じ耐震性能なのか。
- (浦) 校舎側も同じⅡ類の基準である。
- (委) P T A室はコミュニティの部屋と行き来できるようにしないと入れなくなるのか。
- (浦) 通常は玄関・下足室から入って直接P T A室入口へ行っていただくことになるが、両部屋を一体化すればコミュニティルームからも入ることができる案である。
- (委) 地域として準備しておく必要があるものは何かあるか。
- (事) 今後、設計を詳細に詰めていく上で危機管理部門等とも協議を行う。その中で、地域等で準備していただくものをご相談させていただく場合もある。
- (委) 潤沢に予算はないので、準備する必要があるのであれば、早めに教えてほしい。
- (事) マンホールトイレ等、学校施設に付属するものが決まれば、例えばトイレットペーパーや洗剤等、細かい備品や消耗品等協議させていただけたらと考える。
- (事) コミュニティルームとP T A室の間仕切りの件については、どのような手法がよいか教えていただきたい。
- (委) コピー機を共同で使用することもあり、行き来はできたほうがよいのではないか。
- (事) 両部屋は開け閉めできるようにということで問題ないか。
- (委) それで問題ないのではないかと考える。何か大きな作業をする際には、引き戸を開け切って両部屋を使用してもらえばよいと思う。
- (浦) 守口のさつき学園も共同で使用できるようにしている。基本的には扉はガラス張りとし、必要に応じてカーテンで隠せるような手法も考えられる。
- (浦) コピー機以外に部屋に設置するものは何が考えられるか。
- (委) 精査が必要だが、冷蔵庫や棚等も考えられる。
- (浦) 冷蔵庫は湯沸スペースに設置するので、コミュニティルーム側に設置することになると思う。コピー機はどちらの部屋側に設置する方が好ましいか。
- (委) 今後の調整になると考える。
- (浦) 両部屋について、こういう備品等を設置したいという意見・要望をまとめていただければ助かる。
- (委) コンセントの位置にもよる。
- (浦) 設計は今後も1年以上かけて行っていくのでその中で整理をしていきたい。大きな備品で言うとコピー機を入れるか輪転機を入れるかという話も出てくると思う。
- (委) 全世界帯への配布物等大量に刷る必要がある場合は、費用等を考慮するとコピー機でなく輪転機の使用も考えられる。また、費用を一部負担した上で学校の輪転機を借用するという事も考えられる。
- (事) 我々もこんなものがあればよいのではという提案を投げかけたい。逆に、意見や要望があればまた教えてほしい。
- (委) スクリーン設営せずにプロジェクターを映せるよう、コミュニティルームのどこか壁の一面を白くしてほしい。P T Aもその場所を使えばよい。
- (浦) ご意見を踏まえ考えていきたい。
- (委) さつき学園はどのようになっていたか。
- (浦) さつき学園は壁ではなく大型のホワイトボードで対応している。
- (委) ホワイトボードでの対応でもよい。
- (事) コミュニティルームとP T A室の利用人数を教えてください。
- (委) 地域については、地区のみの会議では約13人、役員が入る会議では約30人程度。
- (浦) 30人規模になると、多目的室等いろんな部屋を共同で利用していただくことになると思う。
- (委) P T Aについては、最大25人程度を想定。
- (浦) 会議スペースも可能な限り可変的に使えるよう学校等と調整し、その情報を皆さまにお伝えしながら考えていきたい。

(会) 解体工事については、工事車両等の児童や近隣住民の安全対策や丁寧な説明を、新校舎については、専門的知見から使いやすい提案を引き続きお願いしたい。

案件2. その他について

<事務局の説明>

・前回の協議会でいただいた関西外国語大学前の安全対策等のご意見について、現場の確認や情報提供等をしっかりと行っていきたい。

<質疑・意見など>

(委) 特になし

<その他会議全般質疑・意見など>

(委) 新校舎を設計する上で、地域の意見・要望はいつまで聞いてもらえるのか。

(浦) 大きく考えると、基本設計の意見・要望は年度内までに反映し、5月末までに最終案を固めたい。その後1年間実施設計を行うが、あまりフィードバックはしない方が望ましい。ただし大きな問題が起こればその重要度に応じて対応していきたい。何か気づくものがあれば協議会で出していただきたいし、地域備品等については、こちらからまた調整の働きかけをさせていただきたい。

(委) 防災備蓄品以外に、地域の備品等を校区集会室に入れているものや、各自治会に預かってもらっているものも多くある。仕分けの必要もあるが、どうしてもある程度必要なものは残ってくる。それらをコミュニティルームに入れてしまうとそれだけでいっぱいになってしまう。また、今後増えることも予想されるため、ある程度の余裕部分はほしいと感じる。

(浦) 備蓄倉庫や体育館舞台下、コミュニティルーム等にどう分配するか、どうしても整理がつかず、入らないものが明確になってきた際にどのように設計を調整するのが課題と考えている。デザインビルドのメリットとして、過程で生じた問題が設計と施工一体のため処理しやすいこともある。

(事) 間取りが変わるような大きな変更は実施設計では難しいが、細かな仕様であれば今後も継続して協議していきたい。地域の会議等で意見や要望が上がれば、この会議以外でも個別にお聞かせいただきたい。

<次回の日程及び案件>

- ・開催日時：令和5年2月25日(土)10時30分～
- ・開催場所：禁野小学校管理棟2階(リモートで実施する場合除く)
- ・案件：「禁野小学校の新校舎整備」等を予定